

ぶらっとサロン通信 令和 2 年 10 月号



報告:有楽斎

毎週火曜日の午後 1 時過ぎから午後 4 時半ごろまで、朝日 2 丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、残念ながら 3 月 10 日から自粛し**現在休業中**です。

前号につづき『椿花集(1879)』に載る江戸期の古典品種に 『三鳥』(呼子鳥・稲負鳥・都鳥) 『三妻』(雪見車・月見車・花見車) 『五木』(唐錦・羽衣・春の台・後瀬山(のちせやま)・鉤簪(つりかがり)) 『七木』(鶏の子・緋縮緬・春日野・沖の浪・見驚・限り・漣浪(さざなみ))があります。
今回は『椿花集七木』をご案内いたします。

『椿花集 七木』『鶏の子』『緋縮緬』『春日野』『沖の浪』『見驚』『限り』『漣浪』(さざなみ)



鶏の子(とりのこ)
C. j. 'Torinoko'
淡桃地 濃紅縦紋 蓮華性八重 筒しベ 大輪
1710 年の「増補地錦抄」に記載される 江戸古品種



緋縮緬(ひじりめん)
C. j. 'Hijirimen'
濃紅色 八重 抱え咲き 筒しベ 中輪
ふくらみのある花びらが丸く抱えるように重なっている



春日野(かすがの)
C. rusticana
'Kasugano'
紅色地 白斑入り 八重咲き 割りしベ 中～大輪
ユキツバキ系 江戸中期からの古典種



沖の浪(おきのなみ)
C. j. 'Oki-no-nami'
淡桃地 紅縦～小絞りと白覆輪 八重 蓮華性 筒～割しベ 中～大輪 1695 年の「花壇地錦抄」に載る古典的名花



見驚(けんきょう)
C. j. 'Kenkyô'
白色 八重 蓮華咲き 大輪
1695 年の「花壇地錦抄」に記載されている江戸古種 30 枚前後の重ねの厚い蓮華咲きで 花芯には旗弁も混じるが 時に唐子咲きになることもある。

※C.j.=Camellia japonica の略



限り(かぎり)
C. j. 'Kagiri'
純白 千重咲き 剣弁 蓮華性 中輪
1710 年の「増補地錦抄」に記載される江戸古種



漣浪(さざなみ)
C. j. 'Sazanami'
淡桃地 紅縦・小絞 八重咲き 筒しベ 大輪
1695 年の「花壇地錦抄」に記載される 江戸古種

もう一つの江戸の椿の特徴は豪華な花が好まれたことです。室町時代から安土桃山時代にかけて文化の中心だった京都では、茶の湯に代表される「わび」「さび」が尊ばれ、椿は早咲きから早春咲きの一重(ひとえ)の端正な花が愛されました。

～NHK 趣味の園芸 2020.1 月号 椿園芸家 前田 悟

百椿図 本之巻(部分)
100 種類以上もの椿を色鮮やかに描きだした屈指の図譜
伝 狩野山楽筆(江戸時代 17 世紀)

